

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年4月17日、全国の小学6年生、および中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施され（悉皆調査は平成29年度に続き9回目）、7月31日に文部科学省より都道府県別の調査結果が発表されました。その概要についてお知らせします。

### 1. 本町の結果概要について

#### (1) 学力調査について【平均正答率一覧（単位は100%中の正答率の値）】

<小学校>						<中学校>					
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
島本町	73	56	68	56	62	島本町	79	66	71	51	69
大阪府	68	52	63	51	57	大阪府	75	59	65	46	64
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
府との差	5	4	5	5	5	府との差	4	7	6	5	5
全国との差	2.3	1.3	4.5	4.5	1.7	全国との差	2.9	4.8	4.9	4.1	2.9

  

科目	島本町	大阪府	全国
国語A	73	68	70.7
国語B	56	52	54.7
算数A	68	63	63.5
算数B	56	51	51.5
理科	62	57	60.3

科目	島本町	大阪府	全国
国語A	79	75	76.1
国語B	66	59	61.2
数学A	71	65	66.1
数学B	51	46	46.9
理科	69	64	66.1

学力に係る調査は、小学校・中学校とも、国語、算数・数学、理科の3教科について実施され、国語、算数・数学の2教科では、「知識」に関する問題（以下、A調査）と「活用」に関する問題（以下、B調査）で実施されました。

小学校において、国語では、A調査では、全国平均を2.3ポイント、B調査について1.3ポイント上回りました。算数では、A調査は、4.5ポイント、B調査でも、4.5ポイント上回る結果となりました。理科では、全国平均を1.7ポイント上回りました。

中学校においては、国語では、A調査は2.9ポイント、B調査は4.8ポイント全国平均を上回りました。数学でもA調査は4.9ポイント、B調査は4.1ポイント、全国平均を上回る結果となりました。理科では、全国平均を2.9ポイント上回りました。

無解答率については、中学校では、すべての教科区分で全国平均と比して良い結果となりました。一方、小学校では、算数の教科区分において全国を下回りましたが、平成29年度結果と比べると、おおむね改善傾向となりました。（無解答率については、値が低いほど良い傾向となります。）

#### (2) 質問紙調査結果について

※数値は、町全体の肯定的な回答の割合に対する割合（%）と、全国との差【ポイント】

□授業改善について

- ①「授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」  
 ②「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」

<小学校：55番・56番> ①80.0%【+3.3】 ②63.8%【+2.8】

<中学校：52番・53番> ①76.0%【+2.2】 ②62.8%【+9.0】

□他者との自分の考えを深めたり広げたりする授業づくり

「学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」

<小学校：57番> 81.3%【+3.6】

<中学校：54番> 77.2%【+0.9】

□家庭学習の意識について

①「家で、自分で計画を立てて勉強していますか。」

②「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。」

<小学校：10番・12番> ①65.8%【-1.8】 ②57.6%【-5.0】

<中学校：10番・12番> ①58.4%【+6.3】 ②52.8%【-2.4】

新学習指導要領（小学校は平成32年度、中学校は平成33年度全面実施）では、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成のためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が示されています。たとえば、「めあて・目標の提示」や「学習内容の振り返り」といった学習活動や、他者との対話を通じ、自らの考えをより深めていく学習活動が求められます。本調査結果から、その方向性をもった授業改善が進みつつあることが垣間見られ、引き続き、学校組織で学力向上に向けた取組を充実させていく必要があると考えています。

## 2. 『学力向上』に向けた取組について

…学力と子どもの意欲や態度・生活習慣とは密接に関係しています。

### 1) 「家庭・地域における教育力や生活環境」

①十分な睡眠時間や朝ごはんの習慣等の規則正しい生活習慣が、子どもたちの前向きな意欲を生み出します。

②テレビ視聴、ゲーム機や携帯電話使用等の家庭内でのルールづくりで、自覚と自主性が育ちます。

### 2) 「学校の学力向上の取り組み」

①学習規律をつけて、学び合い高め合うための学級集団づくりを各学校で進めます。

②よくわかり、学ぶ意欲を高める授業づくりに向けて、教材研究の充実や情報機器の活用により、興味・関心を高めるとともに、少人数指導や習熟度別指導など効果的な授業形態の組み立てと展開を図るなど、引き続き授業改善を進めます。

③小学校において各教科の中で話し合う機会を意識して設けるなど、自分の考えを深める授業づくりを進めます。

④全ての教科において、言語活動の充実を推進し、「思考力・判断力・表現力」の育成を図ります。

⑤読書活動や朝学習・補充学習・自主学習など様々な学習の場の設定や、家庭学習の充実に向けた家庭との連携を通して、「自ら学ぶ力」を育みます。

○ 本調査結果や過去のデータ、また「島本町学習状況調査」の結果等を含め、総合的に分析を行い、それぞれの学校が組織的に「学力向上」策を検討・実施することで、児童・生徒一人ひとりの「確かな学力」を育成していきます。

なお、この調査は、対象が限られた学年（小学6年生、中学3年生）のみの実施であり、加えて、国語、算数・数学、理科という学力全体の一部を調べたものです。したがって、公表したデータが本町の児童・生徒の学力全体を表すものではありません。

参考資料（ホームページリンク先）

○国立教育政策研究所：<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

○大阪府教育委員会：<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/zennkoku/index.html>